

「笑いを科学する」

笑い測定器。編者が開発した独自の機械だ。横隔膜の振動で笑いの量や質を測定するという仕組み。本書は笑い研究の第一人者だった編者によるユーモアの科学の入門書だ。医学的な研究から文化論、漫才のネタの作り方まで、笑いに対するさまざまなテーマを網羅している。



木村洋二 編
新曜社 2940円

ユーモアの効用については、科学的に確かめられつつある。米国ではユーモア度の高い人ほど高収入で出世も早いという結果が出ているという。日本でも同じような調査結果がある。

落語、狂言、笑いを神にささげる行事「笑い詣」など、日本が希有な笑いの文化を持っているのは、仏教や神道が笑いに対して寛容だった影響が大きいという。逆に、キリスト教は笑うことに禁欲的だった。

昨年、亡くなった編者は「ユーモアは、笑いの力によって『死』に先駆ける人類の高等技術である」と言っている。例として挙げているのが、阪神大震災の火事がまだくすぶっているうちに起こった逸話だ。

ある男性が家の状況を知人に尋ねられ「(当時の横綱) 鰻乃花ですわ!」と答えた。「全勝」と「全焼」。こういう一言を発することができるユーモアが、辛い出来事を克服する大きな力になるのだろう。[谷口誠]